

平成 19 年度

都市計画マスタープラン策定に係る団体懇談会 要旨

団体懇談会（平成 20 年 2 月 6、8 日）

	日 程	団 体 名	参加人数
1	2 月 6 日	館山市観光協会 館山青年会議所 安房農業協同組合 県建築士事務所協会安房支部 西口まちづくり協議会 NPO 南房総IT推進協議会	9
2	2 月 8 日	館山商工会議所 " 商店会連合会 " 女性会 " 青年部 海辺のまちづくり研究会 NPO海辺のまちづくり塾 NPO文化財・戦跡保存活用フォーラム	12

都市計画マスタープラン策定に係る団体懇談会

— 懇談会要旨 —

1. 懇談会開催日時等

日時：平成20年2月6日(水) 13:30～15:30

場所：市役所2号館2階会議室

市職：都市計画課4名

2. 懇談会次第

1) 開会

2) 都市計画課課長挨拶

3) 懇談テーマ、意見交換

①都市計画マスタープランとは

②館山市全体の都市計画の現状

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

④質疑、意見交換

4) その他

5) 閉会

3. 参加団体（6団体9名）

○館山市観光協会

○館山青年会議所地域開発委員会

○安房農業協同組合

○（社）千葉県建築士事務所協会安房支部

○館山駅西口地区まちづくり協議会

○NPO法人 南房総IT推進協議会

4. 団体から出された主な意見

○都市計画マスタープランへの要望

- ・ 利用者の視点に立ち、既存の道路、公園を充実させる
- ・ 情報通信都市たてやまとして、情報通信のインフラ整備を計画に位置付け
- ・ 用途地域の見直しが必要
- ・ 都計道を廃止するのならば、早急な廃止を望む

○地区の整備に関する要望

- ・ 城山公園の機能充実（売店等）
- ・ 西岬地区の観光トイレ

○その他参考となる意見

- ・ レトロ調な街並み再現しようとする場合、準防火地域がネックとなる
- ・ 景観形成のための屋外広告物の規制には美観、統一が大事
- ・ 海岸道路と国道 127 号を結ぶ間に計画道路は、無くてもよい計画道路がある
- ・ 都市計画マスタープランでは、地域に住んでいる人がどれだけ満足するかというところに重点をおく

5. 懇談会要旨

【資料説明】

①都市計画マスタープランとは

- ・ 都市計画マスタープランの役割や法的位置づけ等について説明。

②館山市の都市計画の現状

- ・ 市全域及び各地区についての人口推移や土地利用現況等を説明。
- ・ 以下の事項等をテーマとして都市計画マスタープランを策定すると報告。
 - 都市計画道路の新設・廃止を含めた見直し
 - 用途地域の拡大や変更等の見直し
 - 景観形成
 - 都市公園の新設等を含めた見直し
 - 中心市街地の空洞化

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

- ・ アンケートの結果より、以下の事項がまちづくりの方向性に挙げられると報告。
 - 誰もが住みやすい、安全・安心なまち
 - 自然や文化を活かした観光都市
 - 公園の整備

【質疑・意見交換】

以下、参加者から出た意見を“○”、事務局からの回答を“⇒”とする。

○アンケートQ8の結果は（都市マスへの参加意識について）。回答率と同じと理解してよいか。

⇒“参加の意識はない：43%”“地区懇談会等で意見を述べたい：30.6%”
“計画段階から積極的に参加：14.7%”“その他：11.7%”

○北条地区には都市公園が2箇所ある。西口の住民として、南欧風の街づくりをおこなった。公園予定地がある、都市公園の位置付けとなるのか。それとも一般の公園か
⇒西口区画整理による街区公園である。20年度に公園化の事業計画を進めている。

○市民の思いと観光客の思いが一致している。駐車場がない。西岬、平砂浦等トイレがない。観光客を城山へ案内すると、山頂に売店がないという苦情が多く寄せられている。市民も同じ意見だと思う。休憩するにも飲み物すら売っていない。整備するとよい。新しく何か作るものも良いが、今あるものを充実することも大事。

○近年体験学習により観光客も増えている。その結果、事務所が手狭になっている。作ったときは満足だったが現在は手狭。観光協会は館山の観光の顔。まちの玄関。改善して欲しい。

⇒城山については、都市計画決定し、都市公園として整備してきた。多くの観光客が訪れている。みやげ物や休憩施設の要望の声が多く寄せられている。何らかの形で施設が設けられないか進めている。商工観光課・商工会議所などと話を進めている。昔は個人で売店を設置していたこともあった。

⇒観光案内所については、所管課と話し合いたい。要は有効利用できれば良いと思う。自由通路等の管理を、観光担当へ移して、自由に使えるようにできればよいのだが。

○安全安心について、具体的な取組みをしてほしい。子供たちの自転車通学や高齢者も街中を歩いている。安全な道の整備はできるのか。駅に用事があっても駐車場もない。タクシー乗り場は観光協会前に移動した。移動するのにも時間がかかった。

⇒市・県が管理するもの、管理区分が様々である。アンケートにもあったが、歩道整備については現道拡幅が可能かどうかという問題もある。

○道路等のインフラ整備も必要だが、今後は情報通信が重要となってくる。項目としてすら掲げられていない。今後は、交流、滞在、定住に繋げてこうとするなら、インターネットも使えないような場所ではダメ。1・2年後には携帯型の端末も出てくる。情報通信都市たてやまとして、こうした情報通信のインフラ整備について、都市計画に入れるべきだと思う。

⇒観光立市において情報通信は欠かせないもの。いい意見だと思う。プランに入れていきたい。

- 自然・食という観点から、館山の将来について、近年農業の指導方法が変わった。それらの農業経営が可能な場合と不可能がある。大きな農家にはこれ以上拡大できない場合もある。
- 農業の将来について、環境にあった農業が館山の農業だと思う。戦後の農業が日本の農業。複合経営農業だと思う。有機農業的な安全な食の生産のリーダーが必要で、それには啓蒙が必要。それと安い堆肥が必要。将来の農業には堆肥を作る施設ができればよい。
⇒役所においても地球温暖化に対する、バイオマスの検討組織ができた。今後は避けて通れない。農業経営の自立もあるが、安全な食、自然の資源を活用し提供していくようにしていかなければならないと思う。

- テレビで栃木の茂木町の土づくり推進委員で堆肥を作っているとう報道がされていた。
⇒農家の自立という観点からも大事だと思う。

- 西会津で食の安全、堆肥を使って、安全な食をつくるという事例もある。健康の面、食の面、環境の面からも前へ進めてもらいたい。
- 国道 127 号バイパスでは、まず用途地域の見直し。館山のまちの軸がズレてきている。大型店舗も多く出てきている。また白地である。見直しが必要。
- レトロ調の建物を建てようとする場合、ネックになるのが準防火地域。いろいろな規制があり、立てられなくなる。まず見直しが必要。
- 館山市では全域で都市計画税をとっていると思う。山の中でも、街中でも法律が同じ、規制が同じ。
- 景観形成について、景観フォーラムで聞いたが国からの補助金が出ますよね。
⇒景観計画区域を定めて、その中で、景観重要樹木や景観重要建物への支援の補助金。市の支出する 1/2 を国が補助するのが現状のルール。景観計画区域を全域にするのか。一部にするのか。区域について決める必要がある。

- 看板規制について、木更津から館山までで看板が立たない場所もある。看板が統一されている町はきれい。美観、統一が大事であり、景観形成に活用してもらいたい。
- ある町では、大きさ、文字、色が統一されている町があった。電柱もネック。
- 看板等の規制は館山に合ったものにすべき。
⇒今回の見直しでは、用途はしっかりと進める。都市計画道路についても 40 年経っても手付かずの道路が 7 本ある。見直しについては皆さんの意見を聞きながら方針を出していく。たたき台を作り再度お示しをしたい。
準防火について、商業地域にかけているが、外したほうがいいのか？
- 準防火は外したほうが良いこともある。レトロ調家屋は全国でやっているが、準防火はアミ入りガラス。軒裏を燃えないものでやらなければならない。こうした規制もあるので見直しに考慮してもらいたい。
- 商工観光課でも、駅周辺の活性化でまちづくりの視察にいつているが、準防火を外さないと日本調の建物は立たない。建築基準法は厳しい。

○基本的には未着手都計道 7 本についてどうするのか。整備すべきものは進めるのか。
⇒国・県でも事業の必要性において見直していく動きがある。現在の都計道は昔の基準で一律に線を引いている。今後は本当に必要な道路を整備していく。財源も限定されているので、“この道は必要・この道は要らない”とし本当に必要な道路に絞っていきたい。

○12 本も必要な理由はなにか。

⇒それぞれの道路で違う。「車道を欲している道路」や「歩道を必要とする道路」。「外周の道路は観光客等の通過交通を処理するための道路」、「中側道路は市街地の交通をさばくための道路」、となっている。S 40 年代に作った計画である。

⇒実現性を考えると困難な道路もある。東関道が開通し、これまでは国道 127 号から国道 410 号を進めてきた。八幡高井線も進めてきた。

アンケートにも出ていたように、今後は生活道路として便利な歩道。住宅地を通る道路もあるが、皆さんの意見を取り入れた中で計画を進めていきたい。

⇒これまでの地区懇談会では、船形地区では空洞化が進んできており、県営漁港もあるので地域の活性化も踏まえて、高速道路を下りた客を海岸道路へ誘導できる都市計画道路を整備してほしいとの要望がでた。

⇒館山と西岬地区からの意見。国道 410 号バイパスから大賀・西岬地域へ向かう都市計画道路、青柳大賀線がある。住宅が密集しているが、路線変更してでも整備して欲しいとの要望がでている。

○国道 127 号が完成し車が集中している。館高前を通り三芳へ向かう交通量も多い。新しく作るより既存の道路を拡張するとも必要。

⇒県が管理している富津館山線。従来から道が狭い。用地の提供を受けながら拡幅しているようだが、なかなか進まない。安房医師会病院脇の国分バイパスが 2・3 年のうちに開通する見込み。三芳抜けて県北へ行く上るための道となるため車が若干減るかもしれない。

○都市計画は基本的に県道は関係ないのか

⇒県道・国道関係なく、決定してかぶせる。

○海岸道路と国道 127 号を結ぶ間に計画道路がかなりあるが、なくてもよい計画道路があると思う。

⇒八幡館山線を必要とした場合、今後 50 年かかっても難しいと思われる。多くの立ち退きと協力を得ないとできない。地域の意見を反映させて考えていきたい。

○廃止するときは早く廃止してもらいたい。計画道路に家を計画している人には、かなり規制がある。

⇒“増築できない”とか意見を頂いている。

○青年会議所で地域開発委員会として活動している。有効回答率が 6.7%で 60 代 50 代が多く、20. 30. 40 代の回答率が低いのは残念。まちのあり方については年代によって相

違はない。原点に戻って考えたい。住んでいる人達が満足できないまちには観光客は来ない。

○観光資源がないところには観光客はこないが、幸い館山には資源が有る。

○住んでいる人間が“住んでいて良かったな”という、まちにしないといけない。

都市計画マスタープランでは、まずは地域に住んでいる人がどれだけ満足するかというところに重点をおいてほしい。そういう意味では都市計画道路の見直しを含め、やれるものはやる、やれないものはやらない。我々が生まれたころの計画が生きていて、それを素に議論がすすんでいるのもどうか。

○アンケートで残念だったのが 20. 30 代の回答が少ないこと。10. 20 年後に私達の子供たちが暮すためのプランを策定していくわけですから都市計画策定の意味をもう一度原点に戻って考えて欲しい。

都市計画マスタープラン策定に係る団体懇談会 — 懇談会要旨 —

1. 懇談会開催日時等

日時：平成20年2月8日(金) 19:00～21:00

場所：市役所本館2階会議室

市職：建設環境部長、都市計画課4名

2. 懇談会次第

1) 開会

2) 建設環境部長挨拶

3) 懇談テーマ、意見交換

①都市計画マスタープランとは

②館山市全体の都市計画の現状

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

④質疑、意見交換

4) その他

5) 閉会

3. 参加団体（7団体12名）

○館山商工会議所

○館山商工会議所商店会連合会

○ 〃 女性会

○ 〃 青年部

○海辺のまちづくり研究会

○海辺のまちづくり塾

○文化財・戦跡保存活用フォーラム

4. 団体から出された主な意見

○都市計画マスタープランへの要望

《理念》

- ・ 館山の持っている魅力やオリジナリティを計画に入れて、歴史性をマスタープランの骨格に入れる
- ・ 景観や自然文化資産を生かすことがマスタープランの理念
- ・ 人口の減少や高齢化等の社会現象をマスタープランに織り込む（エバーサルデザイン等）
- ・ 「市民が主役でまちづくりをどうしたいか」が重要

《まちの形態》

- ・ 将来の車社会の変化とコンパクトシティを意識した都市計画
- ・ 長期間をかけ中心市街地にコンパクトに集める。選択と集中

《景観》

- ・ 南欧風の借り物の街づくりはやめて、館山や南房総のオリジナリティを景観の考え方にいれる

《道路》

- ・ 必要な道路は決定し、不要な道路は大胆に廃止。必要な道路に集中させれば住民の同意は得られる。

《用途》

- ・ 工場用地の需要予測の基で、工場専用地の確保

○地区の整備に関する要望

- ・ 富浦から船形漁港に向けた道路整備が必要
- ・ 館山駅から市役所、国道 127 号への接続道路の整備
- ・ 北下台を安全機能上及び公園として見直し
- ・ 赤山は船形館山港線ともぶつかっている。公園と道路計画を見直してもらいたい。
- ・ 八幡北条線の扱いについては、地元と十分な協議をして欲しい。歩道をつけるだけでも商店街は十分活用できると思う
- ・ 工業団地等を農業団地として果樹園、観光農業等、製品の生産、生産性を持ったエリアにしてはどうか。(農業高校の活用)

○その他参考となる意見

- ・ 狭小道路に集中する高速バスのルート見直し ⇒ 高速バスを西口へ
- ・ 城山公園の「道の駅」化、更なる整備
- ・ 赤山の管理等に関わる、都市計画課、生涯学習課、公民館の関係部課により意見交換の場を設けてほしい
- ・ 過去 40 年、道路が出来なかった理由、教訓をまとめておく必要あり
- ・ 計画の見直し等のシステムを作る
- ・ 歩道整備は買物の環境とまちの活性化につながる。まちの活性化を第一に考えて欲しい。

5. 懇談会要旨

【資料説明】

①都市計画マスタープランとは

- ・ 都市計画マスタープランの役割や法的位置づけ等について説明。

②館山市全体及び各地区の都市計画の現状

- ・ 市全域及び各地区についての人口推移や土地利用現況等を説明。
- ・ 以下の事項等をテーマとして都市計画マスタープランを策定すると報告。
 - 都市計画道路の新設・廃止を含めた見直し
 - 用途地域の拡大や変更等の見直し

- 景観形成
- 都市公園の新設等を含めた見直し
- 中心市街地の空洞化

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

- ・アンケートの結果より、以下の事項がまちづくりの方向性に挙げられると報告。
 - 誰もが住みやすい、安全・安心なまち
 - 自然や文化を活かした観光都市
 - 公園の整備

【質疑・意見交換】

以下、参加者から出た意見を“○”、事務局からの回答を“⇒”とする。

- 計画策定委員会は設けないのか。また、パブリックコメントは行わないのか。
⇒プランのまとめ方としては、最終的には都市計画審議会に諮りまとめていく。
都市マスは都市計画法に基づくプランである。その過程で県の意見を聞いたり、パブリックコメントを取るなどをし、縦覧をする。
こうした計画は普通、各団体の代表の方に集まっていたいただき、委員会を組織して、意見を集約することもあるが、今回は各地区へ行き、市民の意見を直接聞くことができるし、各団体からも直接聞ける機会を設けたので、今回は外部の各代表者の皆様に集まってもらい委員会を組織しなくても広く意見を吸い上げられると判断した。
- 総合計画審議会では漁業、商業、農業団体や教育とか多方面の方がいた。公募がいた。
都市計画審議会は公募がいるのか。
⇒公募はいません。審議会には市議会議員がいる。また、まちづくりの観点から建築士、住民代表、警察等の関係行政機関の方たちで構成されている。
- アンケートを取り、市民のニーズもわかった。私は「観光都市」という言葉は好ましくないと思う。観光とリゾートの区別ができていない。日帰りや1.2泊ではなく、長期滞在できる都市がよい。定住で定職者を増やすような都市づくりが重要。定住者を増やすなら都市計画にも病院や教育施設を増やすような配慮が必要。
- 今後はエネルギーの変化、化石燃料がなくなる。20年後を考えると都市計画が変わると思う。国はコンパクトシティを訴えている。車社会が変わってくると思うので都市計画も変わってくると思う。
⇒今回の大きな目的は、手付かずの都市計画道路の見直しや、用途地域の見直しなどで、特にこの2点について方向性を決めたい。その過程では、定住人口や将来の燃料等を考慮し計画を検討したい。
- これまで40年間都市計画が変更されなかったことは課題である。旧都市計画では対応が不可能に近い。富浦から船形漁港に向けたラインを引けないか。
- 館山駅の周辺の整備、館山駅からバイパス方向へは一方通行の道しかない。
- 狭い道に路線バスが集中している。この道がバスの往来に相応しいかどうか。バスを西

口から出して渋滞にかからないスムーズにする考えもある。
○館山駅から市役所へ、またバイパスへ出る道の整備が重要。

○看板が不足している。市役所や館山駅がどこかの看板がない。伊豆の松崎町、看板に寺社の絵がある。北条海岸の絵や城山の絵を書いた看板で誘導する方法がある。今、車は館山道から白浜、鴨川へ行ってしまう。市内に入っていない。

○海の中から左右に那古寺と城山がある。こんな素晴らしい景観はない。城山公園は国の力を借りて「道の駅」とし、もっと整備する必要があるのでは。

⇒富浦から船形の海岸道路へのアクセスについては、船形地区懇談会でも強い要望が出た。駅周辺の計画については、本市は南北の道路はあるが、東西の道路が少ないといわれている。駅中心に考えていかなければいけないと考えている。

○役所の裏道の整備について、会議所としても優先順位を上げてもらいたい。

⇒市道 1001 号線はバイパスから駅方面へ直線でいける道である。ボトルネック部分について商工会議所からも陳情が出ている。用地の問題がある。労基署が移転したのでこの跡地を道路用地として考えている。平成 20 年度には財産処分をすると言っている。役所としても土地の取得について手を上げていきたい。

⇒看板について他の地区からも意見が出ていた。観光立市を進める中では必要なこと。他の部署と協議して進めていく考えでいる。

○S 40 年代の計画なので時代的に合わない。マスタープランは土地の用途や建て方のルールを決めていく要素が多い計画だと思う。当時の計画では予想外の要素が出てきている。人口の減少の問題、高齢化もマスタープランに織り込んでいかなければならない。ユニバーサルデザインとか。観光とかリゾートや定住人口等、減少に対しては定住を増やす。

○S 40 年代は、他を手本としてまちづくりをする時代だったと思う。これからは、その土地の歴史性やオリジナリティを大事にしたほうがよい。南欧風の借り物の街づくりは無し。館山や南房総のオリジナリティを景観の考え方にもっていくべき。かつて宮崎が新婚旅行のメッカだったときのことをまだやるのか。

○館山の持っている魅力やオリジナリティを計画に入れて、歴史性をマスタープランの表に入れて織り込んでいく必要がある。道路とは別にして、プランの骨格の考え方として織り込んでいくべきではないか。

⇒今回のマスタープランでは景観形成にも取り組んでいく。今の景観は平成元年に定めた計画であり区域も大雑把。地域の特色を大切にして、今後どう景観形成に生かしていくかを考えていきたい。

「那古寺の周辺にビルが建ったりすると景観が損なう」や「八幡神社の周辺の槇の生垣を保存する」とかの意見が出ている。

○S 44 年の計画は大いに見直すべきだと思う。選択と集中ですから、どうしても必要なセンは引き、消せる線は消して、必要な道路に集中させるべき。S 44 年はまだまだモータリゼーションの時代。アンケートでも「車が走りやすい道」より「歩いて買物ができる

道」という結果も出ている。

○中心市街地にコンパクトに集めて、長い時間かけて、住まいも移す。選択と集中により、消せる線は大胆に消したほうが地域住民の同意は得られると思う。ただし、必要なラインはお願いしたい。

⇒線引きにより、線にかかる方には大変な不自由をおかけしている。考慮して見直したい。

○具体的な話だが、里見の稲村城については国指定に向かっている。赤山についても戦跡については全国的に貴重である。これまで、まちづくりに活用してはどうかと市民活動として動いてきた。

○「市民が主役でまちづくりをどうしたいか」が重要。まちづくりに文化財を活用していこうと文化庁の転機もあった。

○景観や自然文化資産を生かすことがマスタープランの理念になってもらいたい。

○視野を広げ、他の地域の問題や良い点を見据えてアイデアを出してマスタープランに生かしてもらいたい。

○北下台は館山で最初の公園だった。藪の中に灯台もある。港湾法では館山港の中心とされている。日本の近代水産業を発展させた人の碑がある。しかし藪だらけ。

○関東大震災で北下台へ逃げて津波の難から逃れた。かつてオドヤがあった裏側の北下台へ行く里道が藪だらけ。安全上からも、公園としても北下台を見直してもらいたい。

○赤山について、生涯学習課が歴史公園都市構想を打出している。都市計画道路とどういう関係になっているか。赤山は船形館山港線ともぶつかっている。公園と道路計画を見直してもらいたい。

⇒赤山の脇に都市計画道路がかかっている。船形館山港線が赤山地下壕に触れている。市として、遺跡として指定をしているなかで都計道が有ることには矛盾がある。都市マスをまとめる中で生涯学習課の意見も聞きながら見出していきたい。

○都計道八幡北条線は12m、計画を残した場合16mにしなければ出来ないのか。

⇒幅員12mでの決定である。今の道路構造令には合わないが、当時12mの計画で周知しておきながら、急に16mにするといっても理解が得られないと思う。特例もあるので12mで出来ないこともない。

○過去に“12mで道路整備しよう”と市へお願いしたが、市からは“12mでは出来ない。16mでないと出来ない。16mにするには沿線住民の署名が必要”といわれた。それは不可能だと判断したことがある。地元と十分協議して残すか残さないか、あるいは歩道をつけるか等、地元と十分相談してもらいたい。

○歩道をつけるだけでも商店街は十分活用できると思う。

⇒八幡北条線が必要かどうか住民から意見をもらいたい。都計道として整備するのか、計画線を消すのか、都市計画道路以外での整備とするのかとか、皆さんと相談して方向性を見出していきたい。

○高速道路、基幹道路の整備も結構だが、住んでいる人が住みやすい環境、具体的には、渡辺建設から線路沿いに駅の方へ道を作ったが、更地に道路を作ったはずなのに道路が狭い。市は道路に対して指導しているのか。線路沿いの道で八幡に行く道路も同じである。生活しやすい道路への市の指導に期待したい。生活している人のためのマスタープ

ランをお願いしたい。

○会議所の工業委員会からの意見。昔は住宅・商業地の無いところに工場があって、周りに住宅が出来ると周囲から“うるさい”と言われ、追い出されてきた。

工場専用用地をある程度用意したらどうか。それには需要予測が必要だが。

○工業団地オーダーメイド方式について、かつて、市と食料品工業が良いのではとの協議をしたことがある。熊本にフードパルというのが有る。

○職安の意見では、“都市に様々な工業がないと市は発展しない”とのこと。

○市民アンケートにおいて、歴史的文化資産は利活用すべきとの結果が出ていたが、平和学習では多くの方たちが館山に来るようになった。戦争遺跡が文化財になる時代が来たと思う。関西方面からの問合せが多く来ている。ガソリン等の高騰も有り沖縄への旅行が減っている。

○赤山に関しては、暗くて危ないとの意見有り。

○赤山は、都市計画課、生涯学習課の文化財関係、豊津ホールは公民館であったり、管理形態等が複雑である。一度関係部課が集まって意見交換の場を設けてもらいたい。

○工業団地は誘致しても現在の日本では難しい。提案だが、この地域には農業高校がある。就職場所がない。農業団地として果樹園、観光農業等、製品の生産、生産性を持ったエリアにしてはどうか。

⇒県企業庁が雇用確保のために計画した。県は新たな造成については見送るとのこと。現在は道路を作っているところである。この意見は商工観光課へ伝えておく。

○都市計画道路は40年近く手付かずであった。船形では、富浦～船形へのバイパス計画について、地元は活気付いている。今にもやれそうな勢いでいます。空振りにならないでしょうね。未着手が7本あるが、整備の順番があるのか。

⇒これから整理するが、必要な道路の優先順位をつける。向こう20年で着手できる道路を計画していく。もし今後20年で着手できないと、計60年着手しないことになる。それは廃止すべき路線と思う。

○優先順位を決めて、整備するのなら意味があることだと思う。

⇒海辺の街づくりを進めているが北条海岸を生かしたまちづくりを考えると、船形の要望については、重要度は高いと思う。

○船形地域では、どんどん造成されている。本当に道ができるのかと思う。

⇒土地を担保するということから考えれば、線引きが必要と考えている。

○市役所の裏側市道は一方通行で危ない。車のスピードを抑えるような工夫が必要。

⇒役所裏の道路は都市計画道路でないので、市の単独で整備しなければいけない。

- これまで40年も道路が出来なかった理由、教訓をまとめておく必要がある。また、計画の見直し等のシステムを作っておいてはどうか。
- このまち、道路や公園などは地域の皆さんが財産を寄付してできた“まち”。もう一度地域を見直すことが必要。
- 長須賀に歩道ができて安全である。安心して買物が出来ると、まちの活性化につながる。まちの活性化を第一に考えて欲しい。
- 商店街が良くなるように、また皆さんが安心して買物が出来るように期待しています。